

ペットの数はわかりますか？

統計資料班には、県民の方々をはじめ、庁内各課や市町村等の各関係機関から、データに関する様々なお問い合わせを頂いている。

ここでは、お問い合わせに対する回答の一例を紹介しよう。

「熊本県内のペットの数を知りたい」とのお問い合わせを受けた。ペットの数を把握するための統計調査はないが、飼い犬については、飼い主が県内各保健所へ登録を行い、狂犬病の予防接種等を行っているため、厚生労働省では、犬の登録頭数を業務上把握している。

昨年、フィリピンより帰国した男性が、現地で狂犬病ウイルスに感染し、国内で発症したことが確認され、話題となった。ここでは、厚生労働省ホームページに掲載されている「都道府県別の犬の登録頭数と予防注射頭数等(H11～H17年度)」から、狂犬病の予防注射率をみてる

(図)。

予防注射率は全国、熊本県ともにやや減少傾向にある。

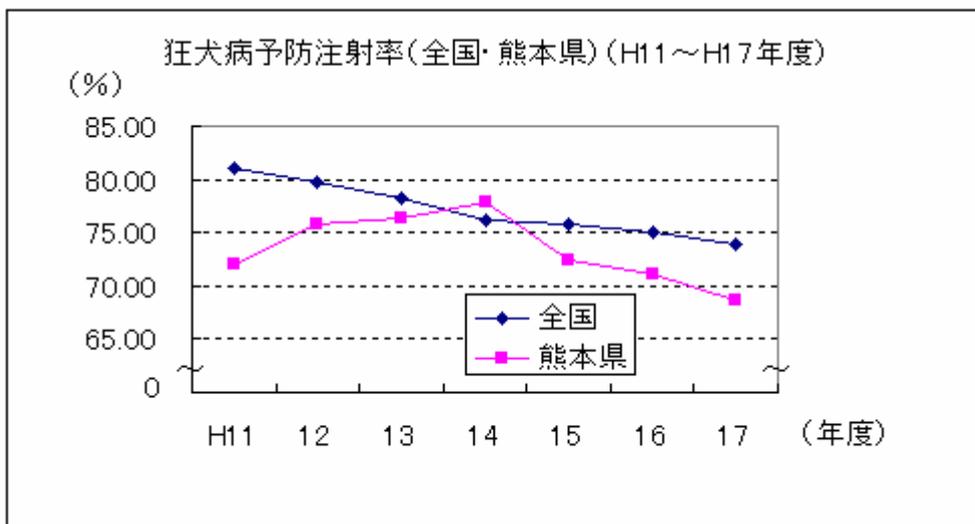
さて、熊本県の飼い犬の数であるが、登録されている数字としては12万頭近くに上ることがわかる(表)。

このように、官公庁等が業務の結果として把握しているデータも、業務統計として活用できる余地があり、参考にしてみてはいかがだろうか。

(図)

(表) 犬の登録頭数(熊本県)
(H11～H17年度)

年度	登録頭数 (年度末現在)
H11	109,453
H12	106,992
H13	107,863
H14	105,896
H15	113,326
H16	115,891
H17	118,065



紹介した資料は厚生労働省ホームページで公表されています。

厚生労働省ホームページ) <http://www.mhlw.go.jp/>

推計の信頼性

～ 将来推計人口から～

国立社会保障・人口問題研究所では、国の社会保障制度の中・長期計画ならびに各種施策立案の基礎資料として、人口と世帯に関する推計を全国と地域単位で実施し、「日本の将来人口推計」等を公表しています。

また、小地域別将来推計人口への需要の高まりに呼応して、市区町村別の推計としては初めて「日本の市区町村別将来推計人口（平成15年12月推計）」を公表しています。

この資料には、平成12年（2000年）国勢調査結果を基準として、2030年までの5年ごとの将来推計人口が掲載されています。

そこで、将来推計人口と国勢調査結果を、熊本県及び熊本県内の各市のデータにおいて比較してみます（表）。

将来推計人口と国勢調査結果の乖離幅Cを、国勢調査結果で除して百分率表示したものがDであり、この値を誤差率と定義します。

熊本県総数の誤差率は、わずか0.67%です。最も誤差率の小さい八代市では0.02%であり、最も誤差率の大きい宇土市でも、2.97%の誤差率に過ぎません。これは、宇土市の将来推計人口を100とすると、実際（国勢調査結果）は97.03であったということの意味しています。

このことから、国立社会保障・人口問題研究所が行っている、人口変動に関する調査・分析の信頼性の高さを垣間見ることができます。

（表）2005年の将来推計人口と国勢調査人口の比較

	A将来推計人口 (人)	B国勢調査結果 (人)	C(=A-B(絶対値)) (人)	D(=C/B×100) (%)
熊本県総数	1,854,503	1,842,233	12,270	0.67
熊本市	673,278	669,603	3,675	0.55
八代市	103,957	103,976	19	0.02
人吉市	38,074	37,583	491	1.31
荒尾市	55,944	55,960	16	0.03
水俣市	29,396	29,120	276	0.95
玉名市	45,735	45,341	394	0.87
本渡市	40,982	39,944	1,038	2.60
山鹿市	32,354	32,053	301	0.94
牛深市	16,404	16,609	205	1.23
菊池市	26,620	26,716	96	0.36
宇土市	39,152	38,023	1,129	2.97

注) Bは、平成12年国勢調査実施時の市町村系列で組み替えた平成17年国勢調査結果を使用した。

資料出所：「日本の市区町村別将来推計人口（平成15年12月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

「平成17年国勢調査結果」（総務省統計局）

「惣菜白書」

毎日、当課宛に様々な統計資料が届きます。それを当課にある統計資料室に保存しています。その中から、今回は「惣菜白書」を紹介します。

「惣菜白書」は（社）日本惣菜協会が発行したものです。2006年版の調査では、惣菜の消費動向調査・販売動向調査について行っています。下の表は、報告書の一部です。首都圏、近畿圏、中京圏に在住する男女 2,038 人に対して実施した消費者調査から、食生活パターンについて見たものとなっています。

この他にも、最近の食生活意識、調理傾向、購買パターン、惣菜市場の動向、惣菜の種類別利用状況などがあります。

詳しく見たい方、興味のある方は統計調査課まで、足を運んでみてはいかがでしょうか？

【食生活パターン】

単位：%

	はい		いいえ	
	男性	女性	男性	女性
1. 朝食を食べないことがある	32.9	23.3	60.4	72.5
2. 昼食を食べないことがある	13.1	9.3	79.5	85.6
3. 夕食を食べないことがある	4.7	4.7	88.2	92.4
4. 家族の食事時間がバラバラになることが多い	47.2	45.0	37.5	42.7
5. 食卓に市販の惣菜があっても不満はない（家族から不満は出ない）	70.9	70.9	11.8	13.5
6. 食卓に他種類のメニューを並べるようにしている	46.0	62.9	18.5	11.9
7. 夕食時にお酒を飲むことが多い（家族を含めて）	38.0	39.8	51.8	52.2
8. 日常的に冷凍食品を頻繁に利用するようになった	26.2	26.1	45.1	51.3
9. 日常的に市販の惣菜や弁当を頻繁に利用するようになった	26.2	23.6	40.7	50.0
10. 2～3年前に比べ牛肉の料理が増えた	9.2	7.6	53.1	57.9
11. 2～3年前に比べ豚肉の料理が増えた	28.2	36.5	24.5	25.4
12. 2～3年前に比べ鶏肉の料理が増えた	31.0	33.3	20.9	25.0
13. 2～3年前に比べ魚料理が増えた	42.4	48.6	17.0	17.4
14. 2～3年前に比べ野菜料理（サラダを含む）が増えた	43.6	53.8	14.3	12.0
15. 2～3年前に比べ和風料理が増えた	41.0	57.6	14.9	9.5
16. 2～3年前に比べ洋風料理が増えた	11.8	12.2	29.8	38.8
17. 2～3年前に比べ中華料理が増えた	14.1	14.7	29.0	39.0
18. 2～3年前に比べご飯食が増えた	19.9	32.2	22.6	19.5
19. 2～3年前に比べパン食が増えた	16.1	14.5	29.4	35.5
20. 2～3年前に比べ麺類が増えた	31.6	34.8	19.2	17.6

巻頭トピック

「ずっとずっと いっしょがいいな 自分の歯」

～平成19年度・歯の衛生週間スローガン～

6月4日から10日は「歯の衛生週間」です。お口の中は健康ですか？

厚生労働省の「医療施設調査」（H17.10.1調査）によると、熊本県内の歯医者さん（歯科診療所）の数は807か所となっており、十万人当たりの施設数も増加傾向に推移しています（表1）。

（表1）

調査年	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
施設数	389	427	561	603	694	759	807
十万人当たり施設数	22.7	23.9	27.8	32.8	37.3	40.8	43.8

次に、歯の処置状況等について、「歯科疾患実態調査」（同省）から見てみましょう。

これは、わが国の歯科保健状況を把握すること等を目的として、全国から無作為抽出された世帯を対象に現在の歯の状況（う蝕やその処置の有無）等を調査したものです。（う蝕した歯を一般的にむし歯という）これによると、20歳以上の各年齢階級では9割以上がう蝕（むし歯等）所有者となっていることがわかります。

（表2）

（人）

年齢階級	対象者	う蝕のない者	処理完了の者	処置歯・未処置歯を併有する者	未処置の者	う蝕所有率（％）
5～9	247	211	12	6	18	14.6
10～14	208	88	62	33	25	57.7
15～19	119	31	49	33	6	73.9
20～24	105	10	49	45	1	90.5
25～29	174	3	95	73	3	98.2
30～34	239	3	125	109	2	98.7
35～39	197	0	106	89	2	100
40～44	247	0	159	87	1	100
45～49	259	2	148	107	2	99.2
50～54	297	5	181	108	3	98.3
55～59	407	8	248	143	8	98.0
60～64	434	14	255	148	17	96.8
合計	2933	375	1489	981	88	87.2

むし歯を予防する方法としては、ブラッシング、食生活（栄養のバランスの取れた規則正しい食生活）、フッ素の応用（フッ素入り歯磨きの使用など）、定期健診（年に2～3回）が挙げられます。（日本歯科医師会HPより）

社会の急激な変化により何かと歯がゆい思いをすることの多い現代、しっかりと歯を食いしばって生き抜いて行くためにも、いま一度、自分の「歯」と向き合ってみませんか？

以上のデータについては次のHPに掲載されています。

厚生労働省HP（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html>）

巻頭トピック

No news is good news ... ?

今回は通信手段に関するデータを取り上げます。

その昔、戦の合図や事件が起こったことを知らせるための方法として狼煙(のろし)をあげました。その後、通信手段として、飛脚、伝書鳩、郵便、電信(電報)、電話、ファックス、ポケットベル、そして携帯電話やパソコンによる電子メールなどが加わり、時代の流れとともに多様化の一途をたどっています。

下に掲げたのは、郵便物取扱件数、携帯電話加入数、ブロードバンド普及状況についてのデータです。

年	普通郵便 引受数 (*1) (各年 度)	携帯電話加入数 (*2)		ブロードバンド普及状況(*2)					
		契約数 (熊本県) (全国)	普及率(*3)	DSL(*4)		CATV(*5)		FTTH(*6)	
				契約数	普及率	契約数	普及率	契約数	普及率
				(熊本県)	(熊本県)	(熊本県)	(熊本県)	(熊本県)	(熊本県)
14	200,978	892,983	48.0%	34,542	5.1%	10,051	1.5%	-	-
		73,514,199	57.8%	5,645,728	11.6%	1,954,500	4.0%	-	-
15	197,541	961,454	51.7%	80,116	11.7%	13,903	2.0%	9,309	1.4%
		79,787,101	62.6%	10,272,052	20.9%	2,475,079	5.0%	894,259	1.8%
16	194,609	1,016,392	54.8%	120,116	17.4%	18,089	2.6%	22,205	3.2%
		85,483,713	67.0%	13,325,408	26.7%	2,873,076	5.8%	2,432,093	4.9%
17	180,968	1,117,880	60.6%	139,717	20.1%	3,236,466	3.1%	41,032	5.9%
		90,177,741	70.6%	14,480,958	28.7%	21,875	6.4%	4,637,280	9.2%
18	-	1,172,519	63.6%	137,824	19.5%	24,518	3.5%	84,654	12.0%
		94,935,958	74.3%	14,236,041	27.9%	3,567,075	7.0%	7,940,384	15.5%

(*1)日本郵政公社統計「都道府県別引受内国通常郵便物数(各年度)」による。年賀、選挙郵便物を除く。

(*2)総務省九州総合通信局情報通信統計(各年12月のデータ)による。

(*3)普及率の人口値は、総務省統計局発表のデータ(平成14~16は「推計人口(各前年10月1日現在)」、平成17~18は「平成17年国勢調査」)を使用。

(*4)DSL...電話回線に専用のモデムをつけて利用するインターネット

(*5)CATV...ケーブルテレビ網を利用したインターネット

(*6)FTTH...光ファイバ網を用いた超高速インターネット

熊本県の通常郵便の引受数はH14に比べH17が約1割減となっているのに対し、携帯電話加入数はH14に比べH18は1.3倍となっています。携帯電話の普及率を見てみると、全国値と比べ各年を通して10%程度の差があります。

ブロードバンド普及件数はH14に比べH18はDSLが約4倍、CATVが2.4倍、また、FTTHはH15に比べH18が9.1倍になっており、FTTHの普及件数の増加がめざましいことがわかります。また、普及率で見ると、熊本県は全国より下回っているのが現状です。

7月の和風月名は文月(ふみつき、ふづき)です。「便りのないのはよい便り」ということわざがありますが、いずれかの方法で、ご無沙汰の”お便り”してみるのはいかがでしょうか？

上記のデータは次のホームページに掲載されています。

日本郵政公社 (<http://www.japanpost.jp/>)

総務省九州総合通信局 (<http://www.kbt.go.jp/>)

巻頭トピック

「お米、麦、ぶどう、大麦、サツマイモ」

夏本番。テレビではビールを豪快に飲み干す酒造メーカーのCMが流れています。”ビールで暑気払い”というのも夏を乗り切るための妙案かもしれません。

国税庁の統計資料(*1)から、ビールおよび発泡酒にかかる酒税の課税数量(*2)を見てみると、ビールは、12月に続き6月～8月が軒並多く、発泡酒は4月と6月が多くなっています。

平成17年度(速報値)

(単位:KL)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
ビール	307,119	272,286	378,092	371,638	370,024	290,392	286,463	274,609	399,907	172,276	211,532	278,839	3,613,177
発泡酒	170,155	140,173	173,777	152,613	152,644	153,988	133,456	128,191	151,529	71,385	120,318	135,758	1,683,987

(*1)酒税課税状況表(速報)月別課税データによる。(国税局<国産>分)

(*2)酒税は製造工場から出荷された時点で課税される。その課税対象となる数量のこと。【酒税法第6条第1項】酒類の製造者は、その製造場から移出した酒類につき、酒税を納める義務がある。

併せて総務省統計局の「家計調査」から一世帯当たり支出金額(*3)を見てみましょう。「家計調査」は、全国から抽出された約8800世帯にご協力をいただき、家計の収入・支出、貯蓄・負債などを毎月調査しているものです。

			清酒	焼酎	ビール	ウイスキー類	発泡酒	その他	合計
総務省 調べ	支出金額 (円)	(*)3) 熊本市	3,887円	9,865円	10,998円	496円	9,364円	6,197円	40,807円
		全国	7,449円	6,705円	16,330円	1,212円	5,600円	6,180円	43,476円
国税庁 調べ	酒類販売 (消費)数量	(*)4) 熊本県(KL)	4,899KL	20,643KL	43,288KL	591KL	27,167KL	25,326KL	121,914KL
		(*)5) ランク (多い順)	43位	7位	26位	44位	13位		27位

(*3)平成18年年報統計表による。(二人以上の全世帯の1世帯当たり年間の品目別支出金額)

(*4)国税局「酒類販売(消費)数量等の状況表(平成17年度)」による。(販売業者等の消費者に対する販売数量等のこと)

(*5)人口千人当たりの消費量ランキング(「熊本くらしの指標100(平成18年度版)」より)

熊本市の支出金額は、焼酎と発泡酒が全国の値と比べて高くなっているのに対し、清酒、ビール、ウイスキーは低くなっています。また、販売(消費)数量のランクについては、焼酎が上位(7位)にあるのに対し、清酒(43位)とウイスキー類(44位)が下位となっています。

適量を守った楽しい飲酒は、心身の健康につながることでしょう。今回のデータを酒の肴にしていれば幸いです。

最後に...飲酒運転は法律違反です。「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」を肝に銘じておかなければいけません。

なお、上記のデータは次のホームページに掲載されています。

国税庁ホームページ <http://www.nta.go.jp/>

総務省統計局のホームページ <http://www.stat.go.jp/data/kakei/index.htm>

熊本県統計調査課ホームページ(熊本のデータ内)「熊本くらしの指標100」

<http://www.pref.kumamoto.jp/statistics/index.html>

熊本県の食料自給率

国内の食料消費が国産でどの程度まかなえているかを示す指標として食料自給率があります。大きく分けて「品目別食料自給率」と、食料全体についての自給率を示す「総合食料自給率」がありますが、さらに「総合食料自給率」にはカロリーベースと生産額ベースの2種類に分かれます。一般的に「食料自給率」というときはカロリーベースで表すことが多いようです。

九州各県の食料自給率（カロリーベース）を見てみると、平成17年度（概算値）では、佐賀県（96%）が最も高く、本県は（58%）4番目となっています（表1）。（なお、100%を超える都道府県は、北海道、青森県、岩手県、山形県、秋田県の5道県のみとなっています。）

全国の食料自給率（カロリーベース）は、農林水産省が8月10日に発表した平成18年度の食料需給表によると、前年度を下回る39%となり、13年ぶりに40%台を割り込みました。

（表1）カロリーベースの食料自給率（%）（平成10年度～平成17年度）

	平成10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度(概算値)	順位
福岡	21	20	22	22	22	22	19	22	8
佐賀	93	87	98	96	100	94	84	96	1
長崎	42	41	41	43	42	43	41	42	6
熊本	63	53	61	62	63	62	52	58	4
大分	55	45	54	54	54	55	46	48	5
宮崎	62	58	62	61	60	62	60	62	3
鹿児島	88	76	80	83	83	80	78	83	2
沖縄	37	40	33	34	31	33	27	28	7

本県は農業就業人口が九州1位、農地面積が九州2位となっています（表2）。農業県熊本のイメージと、この食料自給率が九州4位という順位はなかなか結びつきにくいかも知れませんが、カロリーベースの場合、例えば野菜は低数値で米は数値が高くなる、畜産物も輸入飼料で飼育されたものを除くため比較的低い数値になるという具合に各県の農業の姿を総合的に反映した結果なのです。

ちなみに、生産額ベースでの本県の食料自給率は、平成16年（確定値）で147%となっており、宮崎（247%）、鹿児島（211%）に次いで九州では3位となっています。

（表2）農業就業人口と農地面積

	農業就業人口(人)	全国に占める割合(%)	農地面積(ha)	全国に占める割合(%)
全国	3,352,590	100.0	4,692,000	100.0
福岡	95,023	2.8	89,900	1.9
佐賀	53,344	1.6	56,000	1.2
長崎	52,661	1.6	51,300	1.1
熊本	106,343	3.2	120,400	2.6
大分	54,676	1.6	60,400	1.3
宮崎	66,245	2.0	70,200	1.5
鹿児島	90,962	2.7	125,400	2.7
沖縄	28,224	0.8	39,300	0.8

他の食料自給率や、表1の食糧自給率の計算方法など、詳しく知りたい方は農林水産省HP「食糧自給率の部屋」をご覧ください。

表2のデータは「2005年農林業センサス」及び「耕地及び作付面積統計」から

表1のデータは農林水産省HP「食料自給率の部屋」から

< URL > <http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyuritsu/index.html>

10月1日の謎！？

国勢調査は、大正9年の第1回調査のときから、一貫して10月1日午前0時現在で行われています。

ところで、なぜ調査時期が10月1日なのか疑問に思ったことはありませんか？

その日を選んだ事情については、第1回調査の報告書に書かれており、それによると、

- (1) まず、年末、年始は、従来常に本籍人口又は現住人口の調査時期であるから比較上便宜であり、また年齢計算も容易で好都合であるが、諸取引の決算、年賀の風習等があり、しかも一般に冬季は山陰、北陸、^{とうさん}東山(注)、東北、北海道にわたり、積雪が深く、実查の時期としては不適當である。(注)山梨県・長野県・岐阜県あたりを指す。
- (2) 次に夏季は炎熱が激しく、この時期も不適當である。
- (3) したがって、春又は秋に調査時期を求めざるを得ない。
- (4) しかしながら春は旅行、^{ゆきん}遊山するものが多く、人口分布の常態を失している。
- (5) 以上のことから、比較的人口の分布が常態であり、人々の職業的活動が盛んであり、全人口の大半を占める農業従事者にとっては、必ずしも農繁期ではなく、かつ1年の4分の3を経過した10月1日をもって、最も適當な調査の期日と決めた。

当時の国勢調査では、現在と異なり、それぞれの人が調査の時点にいる場所で調査する方式がとられていました。そのため、(4)や(5)のことが理由に挙がっていました。

となっています。

このように、国勢調査の調査期日は、南北に細長い日本列島の気候風土、風俗習慣、人々の経済活動などから定められたわけですが、このほか、10月1日は4月から始まる会計年度の中央日に当たることから、調査結果が年度の中央時点の値として、行政上の利用に便利であるということもあったようです。

国勢調査結果は、下のホームページから閲覧することができます。また、「熊本のデータ」に、平成7年以前の国勢調査結果および小地域データを随時掲載していく予定ですのでご活用下さい。

統計調査課内「熊本のデータ」

URL: <http://www.pref.kumamoto.jp/statistics/index.html>

総務省統計局

URL: <http://www.stat.go.jp/>

結婚のあれこれ

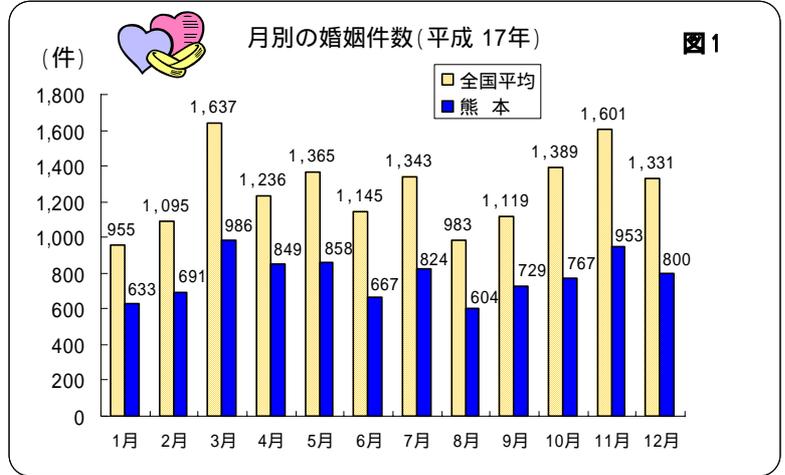
「暑い時期や寒い時期を避ける!？」

図1は、平成17年の全国平均及び本県の月別の婚姻件数です。本県で婚姻件数が最も多いのは3月で、次いで11月が多くなっています(全国も同様)。

本県の月別件数を四季別に見ると、春(3~5月)が2,693件と最も多く、次いで秋(9~11月)が2,449件です(全国も同様)。

このように数字の上では夏と冬は、春と秋に比べて件数が少ないことが分かりました。

結婚している人は、何月に婚姻届けを出したのか?思い出してみてください。結婚していない人も何月に出そうか考えてみてはいかがでしょうか。



資料:「人口動態統計」(平成17年)(厚生労働省)

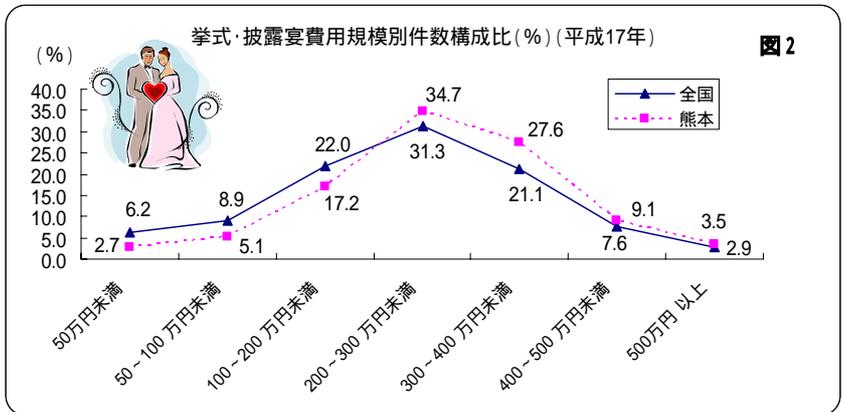
図1の全国平均は全国計÷都道府県数です。

「熊本県民は豪華に結婚!？」

結婚式には人それぞれ特別な思いがあり、費用もそれなりにかかると思います。では、結婚式でどの程度の費用をかけているのでしょうか?

図2は、全国と本県の状況を示しています。本県は、「200万円~300万円未満」から「500万円以上」にかけて全国を上回っていることが分かります。

ちなみに、全体に占める「300万円~400万円未満」から「500万円以上」の割合が最も高い都道府県は、山梨県(65.2%)で、本県(40.2%)は12番目です(注)。このことから本県は、結婚式に費用をかけている県と言えます。(注)(この結果は、都道府県別の統計表から計算したもの)



資料:「平成17年 特定サービス産業実態調査 結婚式場業編」(経済産業省)

ここでは、結婚についての統計データをご紹介しました。統計データには様々なデータがあります。興味のある事について調べてみてはいかがでしょうか。

- ・熊本県統計調査課HP「熊本のデータ」<http://www.pref.kumamoto.jp/statistics/index.html>
- ・厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/index.html>
- ・経済産業省 <http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>